

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2376200230		
法人名	有限会社おおぎもと		
事業所名	グループホーム J0・さざんか第2		
所在地	豊田市大蔵町花立11番地7 (電話) 0565-64-2428		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年9月5日	評価確定日	平成19年10月20日

【情報提供票より】(平成19年8月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 16年 7月 15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	13 人 常勤 4人, 非常勤 9人, 常勤換算 5.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建て

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有( 円)	<u>無</u>		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成19年8月28日現在)

利用者人数	9名	男性	6名	女性	3名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.8歳	最低	65歳	最高	101歳
協力医療機関名	足助病院				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは山里にあり、入居者は木々や鳥、虫など自然を感じながら生活している。見える距離にさざんか第1の建物があり、行事を一緒にしたり、不足のものを借りたり、たくさん作った惣菜を分け合ったりと入居者もよく行き来し、顔馴染みになっている。入居者は皆弱い人を労わる心があり、意思表示の苦手な人に対し、毎日労わりの心で声かけをしている。規則正しい生活をする事で、孤独にならず認知症が進まないようにと管理者は考えている。通院介助はホームで対応しており、状態の把握、診断、結果報告を医師から聞き、必要時に家族に連絡を入れている。また、管理者が看護師であり、家族は安心して任せられることができる環境である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画を職員間で共有、入居者、家族の意見の反映及び見直しが課題であったが、職員には入居者の日々の様子を聞き、介護計画にいれ、これを家族にも見てもらい意向も聞き入れて作っている。毎月見直しが行われている。評価結果を貼って職員も意識できるようにした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  職員各自わかる範囲で自己評価をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  運営推進会議では、入居者の生活状況や介護の様子、職員の気づき、リスクについての理解などを報告している。家族の任期は2年となっている。前回の評価結果は報告されている。市から委託されている包括支援センターからは、アドバイスを受けており、最近は家族からも意見が出るようになってきた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会は年1回(クリスマス会・忘年会)行われている。家族会としての意見は出ていない。アンケートでは大半の家族から、困っていることや不安、求めていること等話を聞いてくれ、その時の状況や要望にあわせ対応してくれるとの声が多かった。今後についてや職員体制についての意見もあり、アンケートで頂いた意見についてはミーティングで職員と話し合っていく予定である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  ホームとしては、町内会や自治会に入会しておらず、地域活動はしていない。地域性を考え、管理者が地域の人なので清掃など地域活動をしている。小学生がよく訪れ、入居者に似顔絵や手紙もくれる。お祭りには、御輿を担いでホームに来てくれ入居者を楽しませている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念「恕」の精神とし、思いやりの心で一人ひとりの思いを大切に、安全に明るく生きがいを持って安心して暮して頂く生活の場と考えている。小学校との関わりも多く、居室には小学生の書いた似顔絵や手紙が飾っており、入居者は来訪を楽しんでいる。土日には、近くに野菜の市が開かれ、地域の人々と触れ合うことができる。		地域密着型サービスの役割を考えながら、理念の中に地域とのかかわりについても織り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ミーティング時に管理者から話され、職員は認識している。入浴や食事、散歩等日々の関わりが理念に基づき生きがいを持って取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や自治会はホームとしては入会しておらず地域活動も土地柄で行っていない。管理者が地元の人である為、これらに加入し活動している。祭りの時には、小学生が御輿を担いでホームに来てくれ、入居者は楽しんでいる。幼稚園や小学校の学芸会にも声がかかり出かけている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は職員に説明し、ミーティングの際に話しているが、職員は評価の難しさを感じている。前回の評価結果は掲示しており、皆で改善に向けて進むようになり、ケアの質の向上に努めている。ミーティングの折にも注意事項は話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の生活状況や介護の様子、職員の気づき、リスクについての理解などを報告している。家族の任期は2年となっている。前回の評価結果は報告されている。市から委託されている包括支援センターからは、アドバイスを受けており、最近は家族からも意見が出るようになってきた。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの要請で、介護相談員の意見交換や、サービス事業所の集まり、認知症ケアの会議で出かけた折にホームの担当者にホームの現状を話している。市からの指導監査があり実状を見てもらっている。管理者が看護師とし配置してあり医療連携体制を受けている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は面会によく訪れ、その折にホームでの暮らしぶりを話している。苦情や意見はほとんど出されない。ホーム便りを送付して、ホームの行事やボランティアが来訪した時の入居者の喜びの様子、食中毒の予防など家族に知らせている。金銭の出納は、ホームが立て替え、領収書を家族に送り支払いをお願いしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1回(クリスマス会・忘年会)行われている。家族会としての意見は出ていない。アンケートでは大半の家族から、困っていることや不安、求めていること等話を聞いてくれ、その時の状況や要望にあわせ対応してくれるとの声が多かった。今後についてや職員体制についての意見もあり、アンケートで頂いた意見についてはミーティングで職員と話し合っていく予定である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年職員の交替はない。結婚の為退職した人から、今でも手紙がよく届き入居者は喜んでいる。さざんか第1との職員異動もない。開設時からの職員が多く、入居者への思いが強く、ホームでの生活を入居者と共に楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員には、外部の研修に参加することを勤めており、出席した時はレポートを提出している。また、ミーティングの際に内容を報告している。県主催の研修に応募するが、人員に枠があるのでなかなか参加できない状況である。ホーム内の勉強会として、毎月ミーティングの折に管理者がワンポイントレクチャーを行い、職員が興味を持てるように管理者は毎回工夫している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>愛知県グループホーム連絡協議会に加入しており、相談委員会や研修に参加している。それぞれのホームの実情や困っていることを話し、どうしたらよい方向に進むかを話し合っている。研修には職員も参加している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が家族と共にグループホームの見学に1~2回訪れ、ホームの様子や仲間との関わりができるように、お茶を飲みながら徐徐に馴染むようにしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は洗濯物を干したり、たたんだり、配膳の手伝いや食後の片付けを自発的に行っている。コーヒーを入れてくれる人もいる。ゴミ捨ては必ず一緒にやってくれる人もいる。排泄に関しては、「ありがとう。悪いね。」などと、礼やわびを言われることがしばしばある。入居者は皆弱い人を労わる心があり、意思表示の苦手な人に対し、毎日労わりの心で声かけをしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者が何をしたいか、何を望んでいるかは、毎日生活を共にする中で理解できており支援している。言葉にあらわせない人には、様子を見ながら欲しいことを掴み、言葉をかけながら支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時には、入居者の状態を1週間位アセスメントし、職員各々から日々の様子を聞きながら、本人本位の介護計画を作っている。家族には、計画を見せ、意向を聞いて同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、管理者が介護計画の見直しを行っている。管理者は介護計画が絵に描いた餅にならないよう、身近な具体的な事柄を計画に立て、サービス内容を職員が実際にケアに当たる際に分かりやすい表記にしている。そして、1カ月毎に評価をすることで、計画に対して、入居者の状態の変化が分かりやすくなっている。職員には、毎朝のミーティングで説明している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の負担を考え、病院への受診はホームで対応している。医療連携体制加算やショートステイを申請しており、ショートステイを利用後、入居する場合もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者はそれぞれのかかりつけ医に受診しており、ほぼ毎日病院への送迎を行っている。家族が付き添う場合もある。その際には、家族から情報を聞き把握している。入居者の状態に変化があった場合は、家族に電話で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては、医師の診察をぎりぎりまで受けながら、ホームでできるかぎりのことはしていきたいと考えている。食事が摂れなくなってきた場合は、どうしたら食べられるようになるかを職員全員で知恵を出し合い考え、ぎりぎりまでホームで生活してもらえよう取り組んでいる。入居者の状態、家族の協力体制、ホームの対応環境、医療機関との連携を考慮しながら支援している。		今後は、さらに医療機関との連携を深め、入居者、家族、ホームが納得できる支援の充実を目指し、取り組んでいくことに期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報についての同意書をもっている。記録類については、事務室に保管をしている。居室の表札は掲げず、暖簾が居室の入り口にかけている。場所がわからない人に対しては、名前を表示したり、暖簾に名前を刺繍する等工夫している。失禁した場合は、さりげなく声をかけ本人のプライドを傷つけないよう配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康を維持するには、規則正しい生活が大切であると考え、食事の時間には皆で一緒に摂るようにしている。その他は自由である。外出の希望が出た場合は、できるかぎり対応している。本が好きな人は毎日本を読んでいる。新聞やスポーツ新聞を読んでいる人もいる。毎日晚酌する人はいないが、医師と相談しながら行事の時など支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が順番に立てている。食材の買出しに週2～3回でかけ、入居者も一緒に買い物に行っている。調理から準備、片付けを入居者と職員が一緒に行っており、入居者に合った役割を見出し支援している。食事の時には職員も一緒に食べ、料理の具材について話すなど会話が弾んでいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することが可能であり、基本的に午後からの入浴になっている。お風呂好きな人が多く、ほぼ毎日入浴している。お風呂嫌いな人には、声をかけ入浴を促している。季節ごとにゆず湯や夏みかんの皮を干して入れる等、入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。周りが自然豊かであり、入浴中に鳥の声が外から聞こえてくることも多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれに合った役割を見出し、ささげやいんげん、大豆など頂きもので幾種類もある豆の種分けをしたり、掃除、洗濯、家事全般に生活の主体者として参加してもらっている。外出の機会を積極的に設けており、喫茶店やドライブ、外食、買い物、散歩等、希望に応じて対応している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の際には車椅子の人が多い。散歩時には、職員1人に対して入居者1名を原則とし、安全に配慮しながら順番に散歩に出かけている。入居者から希望ができれば即でかけるなど臨機応変に対応している。日常の散歩や買い物の他に、遠足など遠出する機会もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	西口と東口の玄関には施錠はしていない。東口の玄関を普段利用しており、西口の門には道路に出るワンクッションとして施錠をしている。観光地ということもあり、大型バスや車の通りが午後になると多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、防災訓練を実施している。電話の側には「119・110番」が掲示され、リビングには、緊急連絡網を貼っている。毎月19日に緊急時の電話の仕方の読み合わせを行っていたが、9月19日には入居者も参加して避難訓練を実施する予定であり、今後は毎月避難訓練を行う予定である。		運営推進会議を通して、地域の方にも協力を呼びかけたり、災害時の備蓄品について準備されることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はバランスに考慮し、畑で作った野菜や近所の人からいただいた野菜など季節のものを提供している。水分の摂取量については1日1,500ccを目安としており、大まかに把握している。ペットボトルにお茶を入れて居室に持っていく人もいる。月2回体重測定を行い、健康管理に配慮している。		栄養摂取カロリーについては、見直しも兼ね1度専門職からアドバイス等を受けること期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや椅子が多く置かれ、入居者が1人で過ごしたり、皆で過ごす事ができる。リビングには、行事や出かけた時の写真が飾られ、廊下には季節にちなんだ入居者の共同作品が掲示されている。道路側の柵を利用して、野菜を育てており、ゴーヤやトマト、花などが植えられている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドが備え付けになっており、入居者はタンスやテレビ等、使い慣れた馴染みの物を持ってきている。居室には、小学生からプレゼントされた作品が飾られていた。好きな俳優のポスターを貼っている人もいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。